平成30年度普及指導計画体系図

南加賀農林総合事務所

【基本課題】	【普及指導課題】	【主な普及指導事項】	【現状(H29) → 目標(H30)】
地域の農業を担う多様な担い手の活躍の支援	多様な担い手による地域農業の基盤強化と活性化 (H28～30)	人・農地プランの活用による農地集積推進	
		・能美小松地域：集落営農組織を対象に農地集積を誘導	担い手への農地集積率　69% → 75%
		・加賀地域：中規模個別経営体を重点とした農地集積を誘導	
		・小松地域：集落営農組織を対象に集落営農組織連絡協議会を活用した法人化への誘導	新規設立法人数（累計） 7経営体 → 12経営体
		地域や営農条件に応じた経営力の強い経営体の育成	
		・複合化・多角化(ベストミックス)のモデル育成による導入経営体の掘り起こし	複合化・多角化に取り組む経営体数（累計）　28経営体 → 30経営体
		・生産効率改善のための製造業の生産工程管理手法の導入支援	取組経営体数（累計） 3経営体　→　4経営体
		地域農業を支える新たな農業人材の育成・支援	就農５年後の農業者の就農計画の所得目標達成率（累計） 達成人数/対象人数0/4 → 3/9
		・個別指導カルテに基づく重点指導の実施による就農計画目標の達成	
		・若手女性農業者の経営参画支援とネットワーク活動の強化	研修会参加延べ人数　78名 → 100名
消費者ニーズの変化に対応した生産・販路の拡大	ブランド化品目の生産振興と産地づくり (H28～31)	ルビーロマンの生産拡大と商品化率の向上	
		・好適樹相への誘導と果粒肥大に応じた厳格な着果制限による出荷量拡大	出荷房数　5,010房 →　7,200房
		・新技術の実証（生育抑制剤、摘葉処理等）による大房の商品化率向上	商品化率　42% → 56%
		エアリーフローラ産地の育成	出荷量 76千本(H29産)→97千本(H30産見込) →110千本(H31産)
		・新規栽培農家の掘り起こし	
		・水稲育苗箱栽培技術導入による大規模生産者育成	１万本以上出荷者の出荷 38千本(H29産)→77千本(H30産見込) →89千本(H31産)
		・冷蔵促成栽培の導入拡大による生産量拡大	促成作型定植比率 47%(H30産)→50%(H31産)
		ＧＩ取得を契機とした加賀丸いもの生産・出荷拡大	
		・省力化技術（高畝形成機、ﾏﾙﾁ栽培等）の導入拡大による生産性の向上	導入面積(累計) 6.9ha(H29産)→7.2ha(H30産)
		・新規生産者の発掘・育成による担い手確保及び技術習得による生産量の拡大	新規生産者(累計) 5名(H29産)→6名(H30産)
		・ＧＩ登録を活用した販売促進等による高付加価値化の支援	販売額　94,561千円(H28産) →105,000千円(H29産)
		ひゃくまん穀の高品質・安定生産	
		・新規作付者への重点指導による多収・高品質安定生産の支援	ひゃくまん穀 単収 689kg/10a → 700kg/10a 整粒歩合 62.6% → 70%以上
		加賀しずくの生産拡大と規格品率の向上	
		・苗木の育成指導と集出荷体制の整備支援による出荷量の拡大	出荷量　2.4t　→　8.0t
		・栽培特性の周知と着果量の適正化による規格品率の向上	規格品率　73% → 80%以上
	南加賀産米のブランド力向上と水田高度利用 (H28～30)	売れる米産地づくり（うまい・きれい石川米づくり運動）	
		・適正穂相・稲姿への誘導による品質・食味の高位安定化(適期中干し、 出穂後の飽水管理等の１か月対策、土づくりの啓発)	１等米比率(主要3品種)　92.6%→90%以上 コシヒカリ 整粒歩合　70.8%　→ 80%以上 適期中干し実施率（6月上旬） 60.2%　→ 70%以上
		省力・低コスト稲作技術の推進	低コスト栽培（直播・密苗）面積 540ha → 550ha
		・Ｖ溝直播・鉄コーティング直播技術の確立による面積拡大	
		・密苗栽培の播種から移植までの重点指導による栽培技術の習得	
		麦類・大豆の生産性向上	大麦単収(精麦)264kg10a → 350 kg/10a
		・サブソイラ等の排水対策効果実証による単収向上	大豆単収　176kg/10a → 250 kg/10a
	実需者のニーズに対応した生産・販路の拡大 (H28～30)	主要産地の活性化支援	
		・ブロッコリー　周年出荷に向けた越冬作型の出荷期間拡大	越冬出荷量　22.8t → 30 t
		・かぼちゃ（小松・能美）　新規生産者の掘り起こし及び既存生産者の作付拡大による生産量の増大	促成作出荷量　30t → 43t
		・なし　黒星病の防除対策の徹底による安定生産への誘導	出荷量　1,163 t　→　1,200 t
		地域ぐるみの地産地消推進	
		・産地見学会等の実施による実需者の理解促進	紹介産地数(累計)　8産地 → 9産地
		・食育教室実施による食育の推進	食育教室実施校数　新規５校→新規５校
地域の強みを生かした里山の生業づくりと魅力発信	地域ぐるみでの里山や農村の活性化 (H29～30)	園芸品目導入による農村の活性化	
		・複合化・多角化（ベストミックス）のモデル育成による取り組み支援（加工用トマト・再掲）	
次世代に向けた他産業との連携による農業の収益性の改善	産地の維持・発展に向けた生産体系の見直し (H28～30)	他産業との連携による収益性向上	実証ほ(養液)単収
		・ICT機器と自然エネルギーを活用した生産技術向上支援(トマト)	長期穫り作型 18ｔ/10a（実証ほ見込）→25t/10a 夏秋作型 7ｔ/10a（実証ほ見込）　→9t/10a
		・生産効率改善のための製造業の生産工程管理手法の導入支援(再掲)	

□ は重点課題

□ は一般課題